

# 美術科の学習活動における思考力の育成の具体化について

美術科 西澤 明

## はじめに

本校の研究テーマ「思考力を育む指導と評価 ～言語活動を通して～」で焦点を当てている「思考力」、「評価」、「言語活動」については、その捉え方が曖昧になったり混乱したりしがちなため、方向や内容を確認したうえで研究を進める必要がある。そこで以下を確認のうえ、実践を進めた。

- 「確かな学力」の3つの要素のうち、「問題解決をするのに必要な思考力・判断力・表現力の育成」、とりわけ「思考力の育成」に焦点を当て、教科の学習活動（授業）において思考力を育む方法について実践研究する。
- 育成する思考力については、「学習活動の中で生じたり設定されたりする課題を、さまざまな思考の方法（思考のスキル）を用いて考える力」と捉える。ちなみに、判断力は「さまざまな思考を通して自分の考えや結論を導き出す力」、表現力は「自分の考えを相手に分かりやすく伝える力」と捉える。
- 思考力を育む方法については、教師の指導や支援、手立てや工夫の観点から、「思考・判断の型の工夫」「形成的評価の工夫」「評価の共有の工夫」「思考の可視化の工夫」などについて実践、考察を行う。
- 思考力の育成を意図する学習活動は、「言語活動」を中心に実践を行う。「言語活動」は非常に多岐にわたるため、平成 22・23 年度の学校研究において焦点を絞った、「考えを伝えあう言語活動（説明）」の場面で行う。

## 1. テーマ設定の理由

「思考」、すなわち考える営みは常に行われており、美術科の学習活動においても、表現活動における発想・構想の段階や制作中はもちろん、様々な場面で子どもたちは考え、決定している。しかしそれはごく自然に、そして連続的に行われているために、考えているということを意識することはほとんどない。それは教師の側にあっても同様で、学習活動の計画や実践において思考力の育成を意図して指導を行うことは、これまで意識して行うことはなかった。そこで平成 24 年度は、教科の研究テーマを「美術科の学習活動における思考力の育成の具体化」とし、これまでに実践してきている教材を思考力の育成という観点から見直し、整頓することにした。

これまでに実践してきている教材については、大きく2つの観点を大切に考えながら試行、実践を積み重ねてきている。1点目は、不明確な美術科の基礎的・基本的な知識・技能を整頓し、明確にすること、2点目は、全国どこの中学校、美術教師、そして子どもたちでも実践できることである。この2つの観点を大切にしたいうえで、今回の研究課題である思考力の育成を図るためには、思考力の育成を目的とした教材を一から新たに試行、実践するのではなく、あくまでもこれまでに作り上げてきた教材の中で、意識的に思考力の育成を意図した取り組みを行うことが重要であると考えたからである。

思考力の育成を意図した取り組みを試行、実践する教材については、「鉛筆の幅広い表現による絵画作品」を取り上げることにした。この教材は、描画用具としての鉛筆の様々な基礎的・基本的な表現技法を学び、その表現効果を用いた平面作品を創るものである。その主題については、「白と黒」、「調子」、「バランス」といった要素を考えながら「美しい平面構成」を創ることにとどまっていたが、基

礎的・基本的な用具とその知識・技能に焦点を当てた教材であることから、より早い段階で実践を行ったほうがよいと考えていた。

## 2. 思考力を育むための指導と評価

### (1) 教科として育みたい思考力について

研究対象とした各教材において、思考力の育成を図る場面の設定については、学習指導要領に示された美術科の目標、すなわち「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」と関連付けることを念頭に置いて考えることにした。

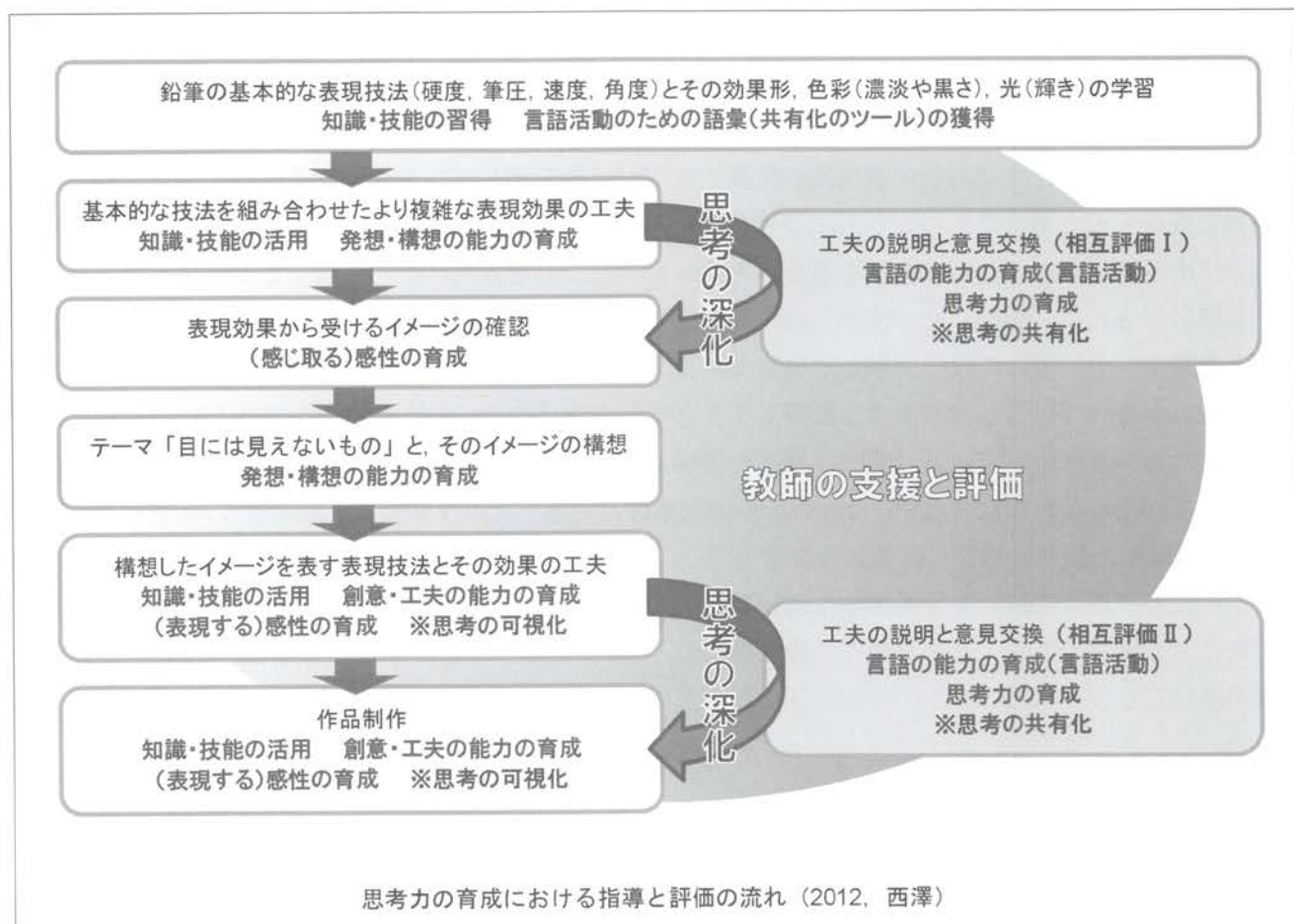
目標に示された「感性」や「情操」は、知識・技能とは違い、その実現を図るための具体的な手立ての計画や、その成果の評価が難しい項目である。しかし「感性」や「情操」といった心の働きは、本来誰もが持っているものであり、教授して与えるものではなく、与えることもできない。教師は、子どもたちが本来持っている「豊かな感性や情操」を引き出すような教材を考え、授業をコーディネートしていかなければならない。今回は「豊かな感性の育成」という目標に焦点を当て、「思考力の育成」を意図した指導と結びつける試みを考えてみることにした。すなわち、「感性を深める（感性が深まる）ための思考活動」を学習活動において意図的に行うということである。具体的には、自分の感じたことや表現したいことを言葉に“置き換える”，他者の感じ方を自分の感じ方と“比較する”，他者の感じ方を自分の感じ方と“結びつける”などの思考の営みが期待できると考えた。

### (2) 思考力の指導

研究の対象とした「鉛筆の幅広い表現による絵画作品」は、鉛筆の幅広い表現効果による美しい形、色彩（濃淡や黒さ）、光（輝き）を用いて抽象的な平面作品を制作する教材である。これまで何年も実践を積み重ねてきた取り組みで、活動の内容についてはある程度完成し、固定化されているが、「感性を深める（感性が深まる）ための思考活動」を意図的に指導するためには、以下のような整頓が必要だった。

- これまで単に「美しい画面構成」というだけで不明確だった作品のテーマを、「目に見えないもの（心で感じるもの）」とした。
- 学習活動の場面を大きく「基礎的・基本的な知識・技能の習得」の場面、「習得した知識・技能を活用した思考、判断」の場面、「自分の考えを説明し、伝え合う言語活動」の場面の3つに整頓した。
- 思考力の育成を意図する活動を2つの場面に設定した。1つ目は、鉛筆の表現効果を生み出す技法（硬度、筆圧、速度、角度）を組み合わせ、より複雑な表現効果を発想、構想する場面、2つ目は、目に見えないテーマやイメージを、鉛筆の表現効果と結び付けて可視化する場面とした。
- 2つの場面では、単に発想させるだけではなく、自分の考えを友人と意見交換させ、友人の考えを参考にしたり、評価を自身の思考の深化に役立てたりするようにした。
- 言語活動における意見交換で、自分の考えを説明する際には、事前に学んだ鉛筆の基本的技法（硬度、筆圧、速度、角度）の用語を使わせることで、会話の深まりをねらった。
- 鉛筆の表現効果から受け取る感情やイメージなどを意識し、言葉として考えさせることで、「感じ取る感性」を育むと考えた。さらに、目に見えないものを可視化する手段として表現効果を活用することで、「表現する感性」を育むと考えた。

「感性を深める（感性が深まる）ための思考活動」における指導と評価の流れをまとめたものが以下の図である。



### (3) 思考力の評価

思考力の育成にかかわる評価については、以下のように考えた。

- 表現効果から感じ取るイメージと、作品テーマを視覚化する際のイメージとを結びつけることができているかを評価するために、鉛筆の表現効果などの非言語の表現と言語による説明を結び付けるように心がける。ワークシート等への記入を随時行う。
- 作品完成後に説明の解説文を書かせ、作品との結びつきを見取る

### 3. 成果と今後の課題

同じ技法による表現効果でも、そこから受ける印象や連想するイメージは一人ひとり違う。それを説明し合う子どもたちの様子を見てみると、自分では思いつかなかった感じ方や考え方を参考にしながら、自分の考えを深めることができたように思う。また、共通に学習した用語を使いながら説明し合うことで説明が理解しやすくなり、複雑な表現効果を創り出す他者の方法を自分でも再現しやすくなったようだ。これまで2年生で行っていた課題だが、完成した作品を見る限り、制作の過程で意見交換の場面を共通言語でお互いの考えを伝え合う活動をうまく取り入れれば、1年生の早い段階でも十分な成果が得られることが明らかになった。今後の課題としては、思考の深化を見取るための評価規準を明確にすることが必要になると考えられる。

#### 4. 実際の生徒作品



「心」



「夏のキラキラ日差し」



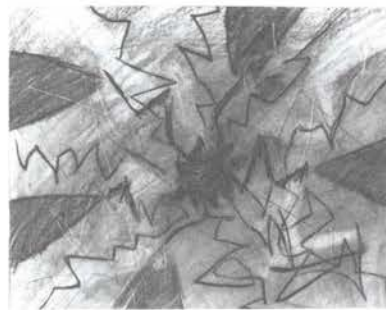
「安心」



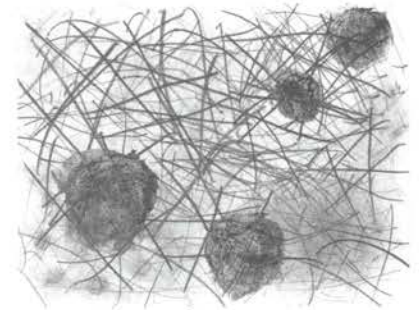
「はげしい風」



「辛い」



「激しい怒り」



「悩みと怒り」

##### ● 「心」

テーマは心で、もやもやした感じを出しました。イライラはトゲトゲしている感じがしたので、周りに三角をたくさん作ってイライラした感じを出しました。もやもやはグルグルした感じだったので、丸をたくさん書きました。そして布でぼかしてもやもやした感じにしました。

##### ● 「夏のキラキラ日差し」

キラキラ感はギザギザの太い線で表した。日差しのみぶしさは、消しゴムですばやく消すことで表した。暑くてフラフラすることを真ん中のぐるぐるで表した。するどい光を上ギザギザと下の塗りつぶしで表した。上下の光の変化を表すために、太さで変化をつけました。

##### ● 「安心」

テーマ「安心」から、とても緊張していた気持ちが、何かが終わって安心するまでの変化をイメージした。作品全体で、紙面の右・右下が緊張した重い気持ちで、左上・左は安心して明るくなった気持ちを表現している。そのため右・右下は6Bで濃く、鉛筆を寝かせて描き、ぼやかしたところではもやもやした感じを。強く6Bで描いた線はとがった気持ちを表している。左上・左に向かってだんだんと筆圧を弱く、鉛筆も3B→HB→2Hへと変えた。そのことにより、右下・右の濃いところから左上・左の薄い色のところの差が大きくなり、明るい気持ちと暗い気持ちの差を表した。また「安心」という感情はほんわか自分を包んでくれるような感情なので、全体的に鉛筆を寝かせて線を引いたり、その上を布でぼかすことで表現した。ねり消しで真ん中から円を描くようにこすると、きれいにグラデーションをすることができた。

- 「はげしい風」

荒々しい感じを出すために、濃く、太く、速い線をたくさん使いました。その中でも、少し穏やかな風を吹かせたかったので、細くて薄い線も使いました。また荒々しくするために、画面を傷つけてから描いたり、白いところと黒いところをはっきりさせたかったので消しゴムをたくさん使ったりしました。

- 「激しい怒り」

中心の黒い物体は6Bで力強く、ゆっくりと描いた。黒い物体から出ている線は6Bで強く、速く描いた。とがっている物体は、周りの線を6Bを重ねて濃く描き、中は3Bを寝かせて速く描いた。背景は布でこすって灰色にして、消しゴムで消してはこすり、ねり消しで消してはこすった。またカッターでも傷つけ、模様が見えるようにした。

- 「悩みと怒り」

けんかの後の様子、その時の気持ちをイメージしてこの作品を作りました。悩みのもやもや感を出すために、鉛筆を削った後の黒い粉を布や指でこすりました。怒りを表すためにいろんな硬度の鉛筆で線をたくさん描きました。強い怒りを表すために、のりを塗った上に削った後の黒い粉を落として、布でたくさんこすりました。

- 「辛い」

テーマは辛いです。辛さを出すために黒々とした部分をたくさん作り、トゲトゲを組み合わせました。いろいろな方向にトゲトゲを向かわせました。